



観法寺墳墓群は、金沢市北部の森本丘陵西端に立地する遺跡で、河北潟を望む見晴らしの良い丘陵上に、周溝で区画された弥生時代後期～古墳時代初め頃の墳丘墓を3基以上確認しました。また、深さ1.7mほどの弥生時代の円筒土坑や、中世～近世の墓地、道状遺構などを検出しました。

墳丘墓は大きく削平され、全体形は不明確ですが、墳丘墓の境に掘られた周溝はしっかりと残っており、周溝の中に遺体を埋葬した長方形の土坑がみられるものもありました。墳丘墓に供えられた壺形の土器や装飾器台なども出土しました。

今年度も調査に着手しており、墳丘墓に関する新たな情報を得られることが期待されます。



R3 発掘調査

ひとつはり いせき こまつし
一針 C 遺跡 [小松市]

一針 C 遺跡は、^{かけはしがわ}梯川右岸に位置する集落遺跡で、弥生時代～中世の生活面が重なってみつかっています。

梯川の改修工事に伴い、平成 25 年度から発掘調査を進めています。調査地が河川敷であるため、夏の出水期を避けて春期と秋期に発掘調査を実施しており、令和 3 年度の春期調査は、すでに本紙 68 号に掲載しました。今回は秋期調査について紹介します。

3 つの調査区において、弥生時代～中世の遺構・遺物を確認しました。下流側の調査区では、桶を用いた井戸などの中世の遺構がみつかりました。中央の調査区では、弥生時代の平地式建物の外周溝から弥生土器などがまとまって出土しました。また、上流側の調査区では幅約 10 メートルの弥生時代の川跡を調査し、土器に加え石斧や石鏃など、当時のくらしをうかがい知ることができる道具もみつかっています。



調査地遠景（西から）



[下流側の調査区] 桶を用いた井戸



[中央の調査区]（上が南）



[中央の調査区] 溝出土の弥生土器



[上流側の調査区] 川跡の調査



[上流側の調査区] 川跡の弥生土器

R4 発掘調査

令和4年度発掘調査と出土品整理

令和4年度は、6件 12,930㎡の発掘調査と、27件の出土品整理を予定しており、これまで同様、新型コロナウイルス感染症対策を施して作業にあたっています。

【発掘調査】

国土交通省事業が2件、県土木部事業が3件、県教育委員会事業が1件となります。

4月より順次、現地調査を行っており、着実に成果を上げています。なお、小松市の一針C遺跡は、かけはしがわ梯川河川改修に伴う発掘調査のため、出水期の6～9月の間、調査が出来ないことから、その前後の春と秋に分けて行います。

【出土品整理】

平成28年度から大規模な発掘調査を行った北陸新幹線建設工事に係る出土品整理がいよいよ大詰めを迎えています。遺物の実測作業は今年度で概ね終了する見込みで、報告書の原稿作成へと移っていきます。その他の事業に係る整理作業も鋭意取り組んでいます。



発掘調査風景（小松市一針C遺跡：春期調査）



遺物の洗浄作業



土器の接合作業



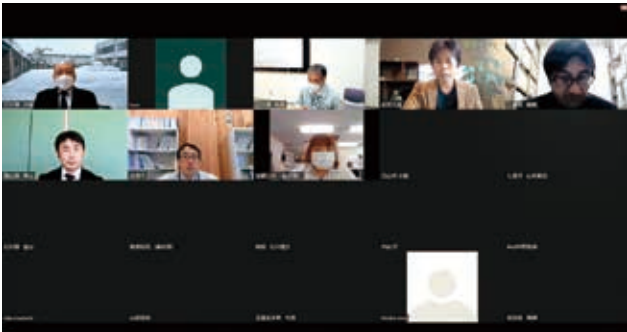
土器の実測作業

調査研究

『環日本海文化交流調査研究事業』

平成12(2000)年度に始まった本事業は、主に日本海沿岸各地の発掘・研究成果を持ち寄り、「日本海」を背景とする視点から、各地域の独自性や共通性などを比較検討し、日本海沿岸各地の歴史的理解を深め、さらに本県の歴史・風土の理解を深化させることを目的とした調査研究事業です。

令和3・4年度は、水のまつりを中心とした古墳時代の祭祀に焦点をあて、共同研究に取り組んでいます。令和4年2月24日(木)には、三重県埋蔵文化財センター調査研究4課長の穂積裕昌氏に、「古墳時代の水のまつり」と題してご講演いただき、理解を深めました。なお、新型コロナウイルスの全国的感染拡大のため、今回の研究集会は、職員は会場で聴講し、共同研究者ならびに他機関からの参加者については、Zoomミーティングによるオンライン参加とする、ハイブリッド方式での開催となりました。



オンラインでの参加者 (Zoom の画面)



研究集会の様子 (2月24日)

R3 情報発信

発掘報告会 『いしかわを掘る』

令和3年度に県内で行われた発掘調査の中から、注目される遺跡を紹介する発掘報告会「いしかわを掘る」を令和4年3月6日(日)に石川県地場産業振興センターで開催し、県及び市町の発掘担当者が6遺跡の調査成果を報告しました。

白山市相木カミノオキョウ遺跡では、弥生・古墳・飛鳥時代の^{たてあな}竪穴建物が報告されました。加賀市庄・西島遺跡では、平成と令和をまたいだ足掛け7年分の調査結果が報告されました。七尾市矢田遺跡では、稲の品種を記した木簡^{もっかん}が出土しました。二行四組で8種類の品種が書き並べられており、このような形で稲の品種を列記した木簡は、全国初の出土事例とのこと。羽咋市柳田シャコデ廃寺跡では、8年間の調査によって寺院の規模と平安時代後期という年代が明らかとなり、これまで考えられていた奈良時代初頭の寺院が本当に存在したのかという新たな課題もみつかったようです。南森本遺跡では、中世の館を取り囲む堀が確認されました。堀からは、儀式や饗宴^{きょうえん}などで使われたと考えられる大量の土師器がまとまって出土しました。金沢城跡では、昨年に続いて城の中核部である二の丸の調査が行われ、検出した礎石基礎が絵図に記載された御殿の柱間寸法と整合することが確認されました。



R4 情報発信

指定文化財の春季公開

埋蔵文化財センターでは、春と秋に国指定重要文化財「加賀郡勝示札」と県指定有形文化財「野々江本江寺遺跡出土品」を期間限定で公開・展示しています。

津幡町加茂遺跡出土の加賀郡勝示札は、平安時代のお触れ書きとして全国的にも有名で、古代国家の農業奨励政策や命令伝達方法を具体的に知ることができる貴重な資料です。

珠洲市野々江本江寺遺跡出土品は、木製の板碑と笠塔婆の2種類計4点からなり、平安時代以降の墓地や葬送のあり方を知るための貴重な資料です。

昨年度からは、これに合わせて小松市八日市地方遺跡から出土した柄付き鉄製鉈を特別に公開しています。柄が完存する弥生時代中期（約2300年前）の鉈としては国内最古の資料です。

これらは、永く後世に残すため科学的な保存処理を施しており、普段は24時間温度と湿度を管理している特別収蔵庫で大切に保管しています。

また、重要文化財は年間の公開日数が定められており、気候が穏やかな春と秋に公開することになっています。年2回しかない貴重な機会ですので、ぜひ実物をご覧くださいと思います。



加賀郡勝示札

R4 古代体験

『手形・足形づくり』

今年も4月23日～5月5日のゴールデンウィークを中心に、未就学児を対象とした手形・足形づくりのイベントを行いました。

この体験は、縄文時代の北海道や東北を中心とした出土品「手形・足形付土版」をモデルにしています。乳幼児の手や足を粘土板に押し付けて焼き上げたもので、子どもが無事に育つよう作られたともいわれています。

作品づくり会場の工房は、新型コロナウイルス感染症の状況改善を反映しているかのように、前年を大きく上回る700名以上の体験者が来館し、大いににぎわいました。幼い子供の手を上からしっかり押さえるお父さんの奮闘ぶり、それを笑顔で見守るお母さんの表情等、連日和やかな雰囲気にも包まれていました。

仕上がった作品は、乾燥後何回にも分けて焼成し、後日体験した皆さんへ返却を行いました。



作品づくり風景



作品の受け取り

R4 古代体験

古代体験学習講座『縄文土器づくり』

令和4年5月15日(日)に今年度最初の講座『縄文土器づくり』を行いました。県内出土の4種類の縄文土器の中から一つを選んで作りはじめます。それぞれ、形や文様に特徴があり、形作るのは優しいが文様付けは難しい土器、その逆の土器もあります。みなさん「なかなか形にならない!」と苦労していましたが、本物の土器を何度も見返しながら作られていました。午後からは、撚糸や竹管など当時と同じ道具を使って文様をつけていきました。比較的涼しい日で土器の乾燥も遅く、いろいろな器形や文様の土器を作ってみて、「縄文人の美意識」を体感された参加者もおられたようです。

製作した土器は、乾燥ののち、6月3日(金)に野焼きで焼き上げました。予定では翌週でしたが、天気の良い日が続くそうでしたので繰り上げての実施となりました。朝から弱い風が続く火力のコントロールに苦労しましたが、夕方にはどうにか焼き上がりました。



体験の様子



土器の成形



野焼きの様子

R4 古代体験

古代体験学習講座『弥生土器づくり』

令和4年6月19日(日)に講座『弥生土器づくり』を行いました。初めに縄文土器と弥生土器の違いや、器形の変遷などを説明した後、県内出土の4種類の弥生土器の中から一つを選んで作りはじめます。縄文土器と同じく粘土ひもの輪積みにより形を作っていきます。底部から大きくふくらませた土器が粘土の重みで崩れてきてしまい、直すのに苦労される方もいましたが、午後にはみなさん立派な弥生土器を形作られていました。その後、櫛描文などを描いて完成です。「むずかしかったけれど楽しかった」、「うまくできなかったのでリベンジしたい」、近くに並べてあった縄文土器をみて、「縄文土器も作ってみたい」との声も聞かれました。

製作した土器は、乾燥ののち、天気の良い7月11日(月)に野焼きしました。弥生土器は、わらと粘土で全体を覆う、覆い焼きという方法で焼き上げています。



体験の様子



土器の文様入れ



完成した土器

R4 古代体験

団体体験・施設見学

埋蔵文化財センターでは、県民が気軽に郷土の歴史を学び、文化財に対する理解を深めてもらう施設として、施設見学や体験学習を実施しています。

施設見学では、普段みることのできない出土品整理・保存処理等の作業現場を見学し、出土した土器が復元されていく様子などを具体的に学ぶことができます。また、県内の出土品をテーマに沿って展示した展示室、遺跡から掘り出された最新の成果を伝えるホール展示の見学では、実物の土器や石器を見ながら、先人の知恵や技術、ふるさとの歴史を学ぶことができます。さらに、古代体験ひろばの復元住居を見学し、実際に住居にふれることで、住まいの変化を実感することもできます。

また、体験学習として、「まが玉作り」や「縄文アクセサリーづくり」等の古代体験を用意しており、古代の暮らしや技術を体験することができます。

これらの見学コースや体験学習のメニュー等の具体的な内容は、各団体ごとに相談しながら対応しており、令和4年度は6月末の時点で、15件の団体体験・施設見学を実施しています。



見学の様子



古代体験の様子

R4 古代体験

出前考古学教室

出前考古学教室は、学校や公民館などの依頼により、学校教育や生涯学習の場へ職員を講師として派遣する無料の考古学教室です。埋蔵文化財センターが保管する土器や石器を活用し、ミニ展示や体験用具を利用した古代体験を行っており、昔のワザを体感し、ふるさとの歴史をより身近に感じることができる内容となっています。

令和2年度からは、「縄文人の暮らしにふれる」と題したテーマで、ガイダンスとまが玉作り等の古代体験を行っており、自然と共生した縄文人の生活が、具体的に体感できる内容になっています。

令和4年度の6月末時点では、18件の出前考古学教室を実施しており、7月以降も教室の開催が予定されています。



縄文時代の長さを確認



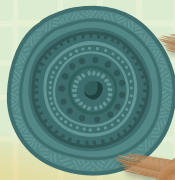
黒曜石の切れ味を試す



本物の遺物を観察



まが玉作り



まいぶん日誌

令和4年(2022)
3月～6月



3月

講座「鉄器づくり」

県の広報テレビ番組の取材

初めての鍛冶体験！
古代の人は器用だな



展示室を紹介します



速報 パネル展



4月

県指定有形文化財
珠州市野々江本江寺遺跡出土
「板碑・笠塔婆」春期公開

今年度も
施設見学がはじまりました

5月

令和3年度の
調査成果がならびます

講座「縄文土器づくり」



実物を間近に見てください



ゴールデンウィーク企画
「手形・足形づくり」

うまく押せるかな



まが玉づくりも体験



縄文時代の暮らしにふれよう



土器は天気良い日に
野焼きします



電気窯で焼き上げます

出前考古学教室



きれいに焼けました！



講座「弥生土器づくり」

受け取りに来て下さい



黒曜石のナイフ よく切れます！



6月



もう少して完成！